

フフホト雑感

2011.6.30

香港 花木

内モンゴル自治区は我が国の約 3 倍の面積を持ち、その中に住むモンゴル族は約 400 万人と隣のモンゴル共和国の人口 (270 万人) を上回っている。内モンゴル自治区の GDP は過去 5 年間で約 3 倍 (中国全体では約 2 倍) に増加しており、その伸び率は中国一である。言うまでもなくその原動力は石炭をはじめとする鉱物資源である。

5 月 10 日に内モンゴル自治区の東部、シリンホト市の郊外で発生した交通事故は、大勢のモンゴル族の目の前で起き、その後 5 月いっぱい内モンゴル自治区で大規模な漢族とモンゴル族の対立のきっかけとなった。報道によれば、日ごろから草原の上を我が物顔に走り回る大型石炭運搬ダンプカーに腹をすえかねたモンゴル族の遊牧民がダンプの前に立ちはだかり、それをダンプカーを運転する漢族がひき殺したという。これに憤激したモンゴル族、特に若者が日ごろからの漢族の「横暴」に腹を据えかねて大規模なデモを行い、特に 30 日には自治区の省都フフホトで 1000 人規模のデモが発生したという。

中国はかつてから「内憂」が「外患」と呼応することを最も警戒してきた。典型的な例がチベットであり新疆ウイグルの暴動であるが、モンゴルでも上述のようにこの構造はあてはまり得る。このため、香港等の報道では自治区トップの胡春華書記が自らモンゴル族と座談会を開催し全面的に非を認めるとともにモンゴル族遊牧民をひき殺した運転手を迅速に死刑執行する一方、密かに解放軍の精鋭部隊及び戦車部隊をモンゴルに運び込み、万に備え万全の態勢をとったという。

私がフフホトを訪れたのは 6 月 7 日で、1000 人規模のデモから 1 週間後であった。



← フフホト市街

ちょうど中国における大学入試（高考）の最終日で暑い日であった。想像していたような緊迫感とは全く無縁で、人々は木陰に涼を求め集まっていた。人が集まっている一角があったので行ってみると高校入試会場で、門の前には子供を送り出す親や、子供を迎えに花束を持って集まった親が密集し、警察官が交通整理に乗り出していた。



← フフホト市街



← 入試会場

町の印象としては意外に小ぢんまりしており、緑が多い。しかし道を一步入るとドブの匂いがきつい小道があり、一般民衆の生活水準は中国の他の都市より低い印象を受けた。町の中心部には大きなショッピングセンターがあり、ポルシェカイエン等の高級車が泊められているかたわら、他の都市ではあまり見ないロバの果物売り（周辺の農村から農民が

ロバに果物をひかせて町に来て売る)を見かけた。車も多く、車種も高級車が目立ち、豊かな人は豊かであるという印象を受けた。一方、この町でわずか1週間前に、中国中央指導部を身構えさせる大規模デモが起きたという印象は正直全く受けず、市民生活は完全に平穏に復帰しているように見受けられた。



← ロバ。



←渋滞も激しい。

その後、町の北部にあるフフホト駅前に足を延ばすと、物売りが他の町よりやや多い印象で、身なりも(どこの町も駅前とはそれほどよくないが)粗末な人が多い印象を受けた。とても中国31省市で最もGDP成長率が高い自治区の省都とは思えない、というのが正直な印象だった。



← 駅前光景。

こうしたことから、①今回の内モンゴル自治区でのデモは、しばらく盛り上がり省都に波及したものの、自治区書記自らの積極的な対応で迅速にその火が消されたこと、②しかしながら根っこにある貧富の格差は大きく、構造的な事情は変わっていないため、将来こうした問題が再燃する可能性は十分にある、と考えた。

しかしながら、最近、北京に戻り、有識者と本件について話をしたところ、その有識者は以下のとおり私の思いつかなかった点を指摘した。すなわち、モンゴル族は少数民族であるが、遊牧民優遇政策により毎年放牧地 1 ムー当たり 600～700 元の「放牧地保護手当」を支給されており、放牧面積も広大であることから事実上働く必要がないほど豊かであること、放牧民からの羊の買い取りは、漢族からの羊の買い取りより 1 頭当たり 5 元上乘せされており、この仕組みを悪用して漢族から羊を譲り受け自らの羊として売る「偽造羊」売却により多額の補助金を得ている者もいること、一方、駅前や街中に多く見られた貧しい身なりの農民はその多くがモンゴル族ではなく河北省あたりから流入してきた漢族で、モンゴル族の下請けとして営農・放牧等に従事している者が多いこと等である。この話を聞いて、こうした構造は長江三角州周辺でもよく見られる構造、つまりもともとの農家は賃金の高い都市に出稼ぎに行き、自らの農地は田舎から出稼ぎに来た農民に小作させ、更にそうした出稼ぎ農民に家を貸して家賃まで取るやり方と同じではないかと思いついた。

したがって、貧富の格差については、単純に漢族とモンゴル族との関係に帰することはできず、むしろ最も底辺にいる「出稼ぎ漢族」の問題を意識して理解する必要があると考える。

(以上)